

生物の環境適応能力のしくみを探る： 海で生きるということ

生物資源科学部 助教 山口 陽子

地球上の生物は、誕生から40億年をかけてあらゆる環境に進出してきました。私は生物の環境適応能力に興味を持ち、特にマイナーな魚類の生理学（体の中のしくみ）を研究しています。

「それが何の役に立つの？」と思う人も多いかもしれません。最近では地球規模での環境変動が問題になっていますが、そもそも地表の7割は海です。海水の温度や成分、海流などが変化したとき、海の生物はどのような影響を受けるのでしょうか？私たちはそれにどう対処すべきなのでしょう？海に囲まれた日本では無視できない問題です。生物のしくみを理解することは、地球環境の未来を予測し、対策を講じるために必要なのです。

現在注目しているのは、脊椎動物の中で最も原始的なヌタウナギです。知名度の低い生物ですが、島根県では重要な水産資源であり、韓国への輸出を目的として主に県西部で漁獲されています。いずれは研究成果をもとに、島根県における持続的な漁業の推進にも貢献できたらと考えています。

